

## 審査の結果の要旨

氏名 金森 サヤ子

本研究は、これまで鳥インフルエンザに関する危険行動の変容が困難であることが報告されているタイにおいて実施された。そして、鳥インフルエンザ予防介入活動を学校保健アプローチを用いて実施し、異なる健康認定校のランキングに与える影響を探索することにより、下記の結果を得た。

1. 鳥インフルエンザ予防介入活動実施後の学童・保護者・教員の知識・態度・信条・行動レベルを健康教育介入群・非介入群間で比較したところ、健康教育介入群の方が、健康教育非介入群に比べて、全ての研究対象者において行動レベルが統計学的に有意に高かった。
2. 保護者の知識、また学童と保護者の態度・信条レベルも、健康教育介入群の方が統計学的に有意に高かった。
3. 鳥インフルエンザ予防介入活動実施後の学童・保護者・教員の知識・態度・信条・行動レベルを健康認定校のランキングで層化し、健康教育介入群・非介入群間で比較したところ、健康認定校（金、銀、銅）では、健康教育介入群と健康教育非介入群間に上述の統計学的有意差が認められた。
4. 健康非認定校（銅以下）では、上述の統計学的有意差は認められなかった。
5. 健康認定校へは本介入活動の拡大を、そして健康非認定校に対しては、本介入活動の追加的支援を行うことで、鳥インフルエンザに関する危険行動の変容が、より広範囲の学校で可能になるものと示唆された。

以上、本論文はタイの学童・保護者・教員に対して学校保健アプローチを用いた鳥インフルエンザ予防介入活動を行い、健康認定校においては、全ての研究対象者の行動変容が可能となったことを明らかにした。これまでの、マスメディアを通じた情報提供のみでは鳥インフルエンザに関する危険行動の変容が困難であったことを考慮すると、全ての研究対象者において行動レベルが向上した点は顕著な所見であり、且つ今後の鳥インフルエンザの予防と対策において重要な貢献を成し得ることから、学位の授与に値するものと考えられる。